

## 第 5 回 六波羅・法住寺殿

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 田中利津子

- 1 鳥部野（鳥辺野）という地域
- 2 六波羅とその周辺
- 3 法住寺殿とその周辺
- 4 絵巻物に見る法住寺殿
- 5 出土瓦

### 参考文献

- ・『京都市の地名』平凡社、1979 年。
- ・『史料 京都の歴史 第 10 巻』平凡社、1992 年。
- ・『院政期の内裏・大内裏と院御所』文理閣、2006 年。
- ・『年中行事絵巻』日本の絵巻 8 中央公論社、1988 年。
- ・「法住寺殿発掘調査概要」『京都府埋蔵文化財発掘調査概報』京都府教育委員会、1966 年。
- ・『六波羅政庁跡 東山郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告書』近畿郵政局、1977 年。
- ・「六波羅政庁跡」『昭和 56 年度京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1983 年。
- ・『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会、1984 年。
- ・『法住寺殿跡 平安京跡研究調査報告第 13 輯』（財）古代学協会、1984 年。
- ・「法住寺跡」『昭和 57 年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1984 年。
- ・「法住寺殿跡」『昭和 58 年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1985 年。
- ・「法住寺殿跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 62 年度』京都市文化観光局、1988 年。
- ・「法住寺殿跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 3 年度』京都市文化観光局、1992 年。
- ・「六波羅政庁跡」『平成元年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1994 年。
- ・「六波羅政庁跡」『平成 2 年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1994 年。
- ・「法住寺殿跡・六波羅政庁跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 9 年度』京都市文化市民局、1998 年。
- ・「法住寺殿跡」『平成 9 年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1999 年。
- ・「法住寺殿跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 10 年度』京都市文化市民局、1999 年。
- ・「京都国立博物館構内発掘調査報告書－法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡－」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告第 23 冊』（財）京都市埋蔵文化財研究所、2009 年。
- ・「法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8』（財）京都市埋蔵文化財研究所、2010 年。
- ・「六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-6』（財）京都市埋蔵文化財研究所、2012 年。

### 六波羅・法住寺殿地域 略年表

時代	天皇	院	法住寺殿に関連した出来事	最勝光院	六波羅蜜寺に関連した出来事	関連した出来事
平安時代中期			988 藤原為光が法住寺を供養。  1032 法住寺が焼亡。		968 空也上人が鴨川東岸に西光寺を建てる。 988 空也弟子の中信が西光寺を六波羅蜜寺と改称。 1029 藤原頼通が東山の花見の途中に立ち寄る。	
平安時代後期前半	1086 堀河 1107 鳥羽 1123 崇徳 1141 近衛	1086 白河   1129 鳥羽				1086 白河上皇が院政を開始。   1129 鳥羽上皇が院政を開始。
平安時代後期後半	1155 後白河  1158 二条	1158 後白河	1156 後白河上皇が藤原通憲(信西)の法住寺堂へ行幸。  1158 信西の妻(後白河乳母)が法住寺に清浄光院を供養。  1161. 4. 13 後白河上皇が新造東山御所(南殿)へ移徙、皇后宮同車、同年8. 2 西御所に渡御、同年8. 3七条上御所(北殿)に渡御。 1164 平清盛造進の蓮華王院千体観音堂(三十三間堂)を供養。  仁安年間に南殿を改築・拡張し、1167後白河上皇が渡御、平滋子寝殿に御す。同年5. 1七条殿(北殿)新馬場にて競馬あり。  1169 後白河上皇懺法堂で出家。			1156 保元の乱起こる。  1158 後白河上皇が院政を開始。 1159 平治の乱起こる。
	1165 六条			1171 後白河法皇と建春門院が、法住寺殿近辺に阿弥陀堂の如き物の建造を企画し、平等院を歴覧。 1172 建春門院が新御堂(最勝光院)を上棟。 1173 供養、同年12. 24最勝光院内に小御堂(御持仏堂)を供養。 1174 後白河法皇と建春門院・高倉天皇が、法住寺殿から舟で最勝光院へ渡御。 1175 建春門院が新御所へ渡御。(南御所)		1167 平清盛が太政大臣となる。 1168 平滋子の立后宣言をする。  1169 平滋子が女院号を得て、建春門院と称す。
	1169 高倉			1176 後白河法皇が東山御所で五十宝算の賀を行う。 承安年間に七条殿(北殿)の東西郭を統合。 1177 蓮華王院内の五重塔を供養。	1178 最勝光院内に塔心柱を建立する。	1176 建春門院が死去。亡骸を蓮華王院東に新造の法華三昧堂に葬る。  1177 鹿ヶ谷の密議起こる。
	1180 安徳  1183 後鳥羽			1183 法住寺殿の所々に堀を掘り、釘板を構える。 同年、木曾義仲が院御所(南殿)を襲撃、放火する。	1183 後白河法皇が新熊野社から舟で最勝光院へ臨幸。	1179 平清盛が、後白河法皇を鳥羽殿へ幽閉。 1180 福原へ遷都し、後遷都する。 1181 平清盛が平盛国邸で死去。 1183 平家、都落ち。六波羅邸に火をかける。
鎌倉時代	1198 土御門 1210 順徳 1221 仲恭・後堀河	1198 後鳥羽	1191 源頼朝、諸国に造営を課して、法住寺殿を再建。  1209 法住寺殿の舎屋を少々壊し、三条西殿(三条烏丸殿)へ移築。  1249 御堂(三十三間堂)・塔・不動堂が焼失。 1266 三十三間堂を供養。	1185 地震により北釣殿・二階廊・進物所屋など傾倒する。 1191 後白河法皇が最勝光院南萱御所に渡御。  1226 窃盗により堂舎が焼亡。 1227 最勝光院を上棟。  1301 高倉富小路で火事、余炎で最勝光院が類焼。	1190 源頼朝上洛。六波羅新亭に着く。	1185 平氏滅ぶ。頼朝諸国に守護地頭設置。 1192 後白河法皇が死去、源頼朝が鎌倉幕府開く。 1198 後鳥羽上皇院政開始。  1221 承久の乱起こる。

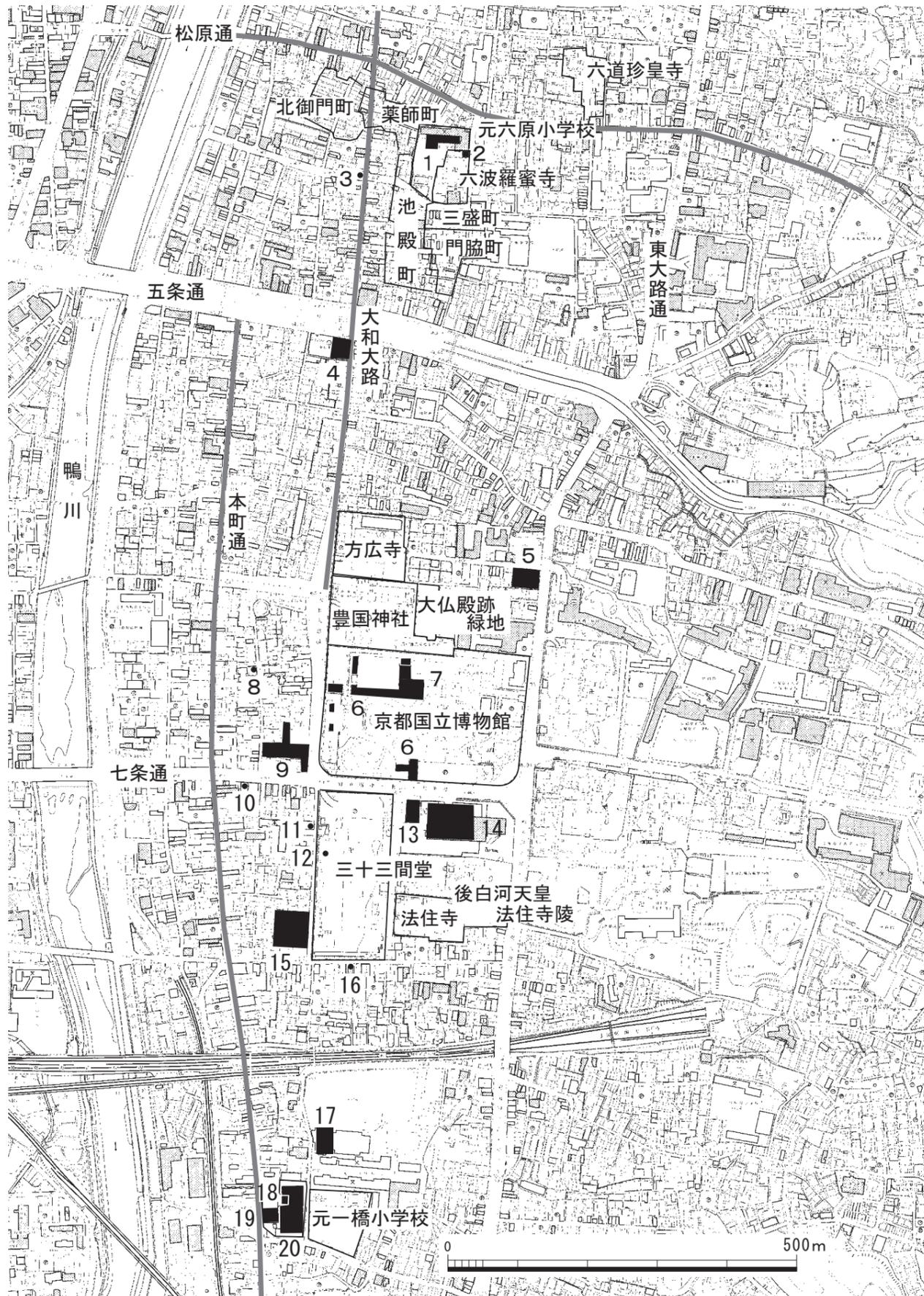


図1 調査位置図

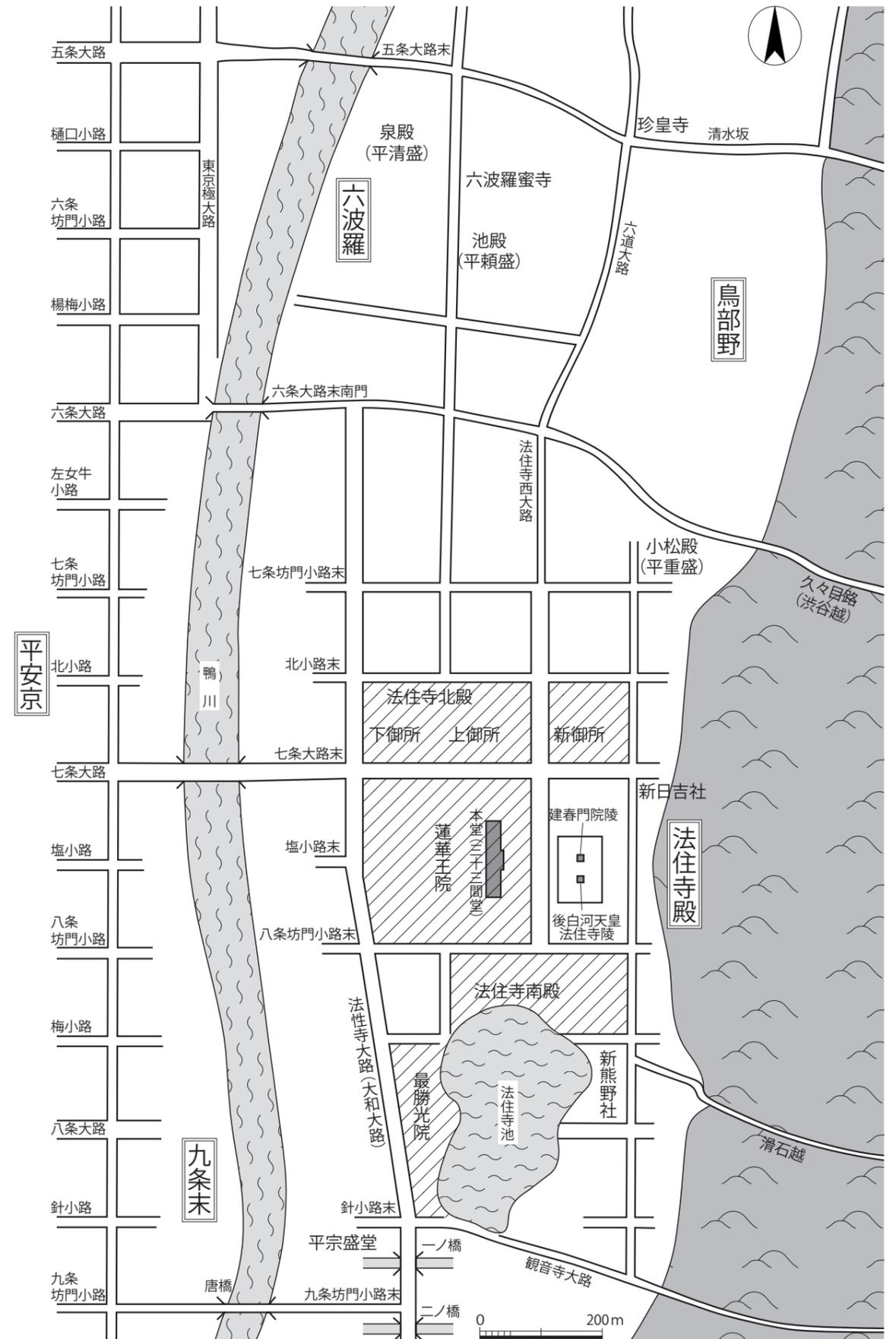


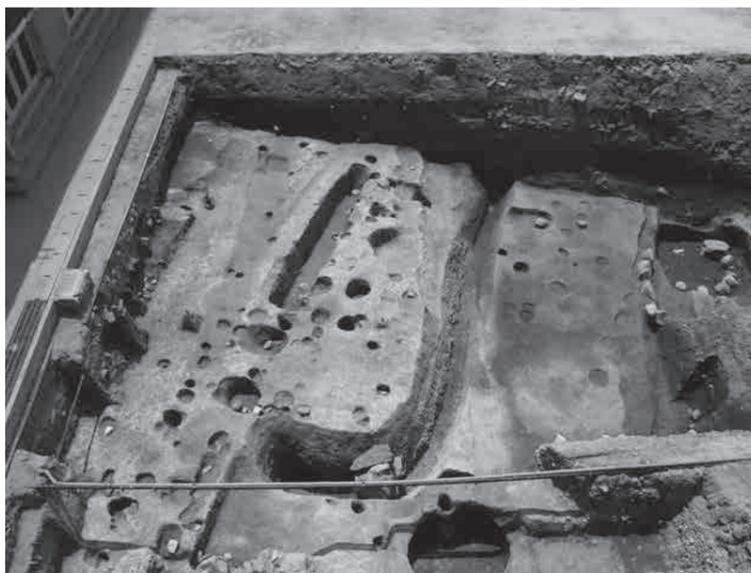
図2 法住寺殿とその周辺



門1



溝134 遺物出土状況



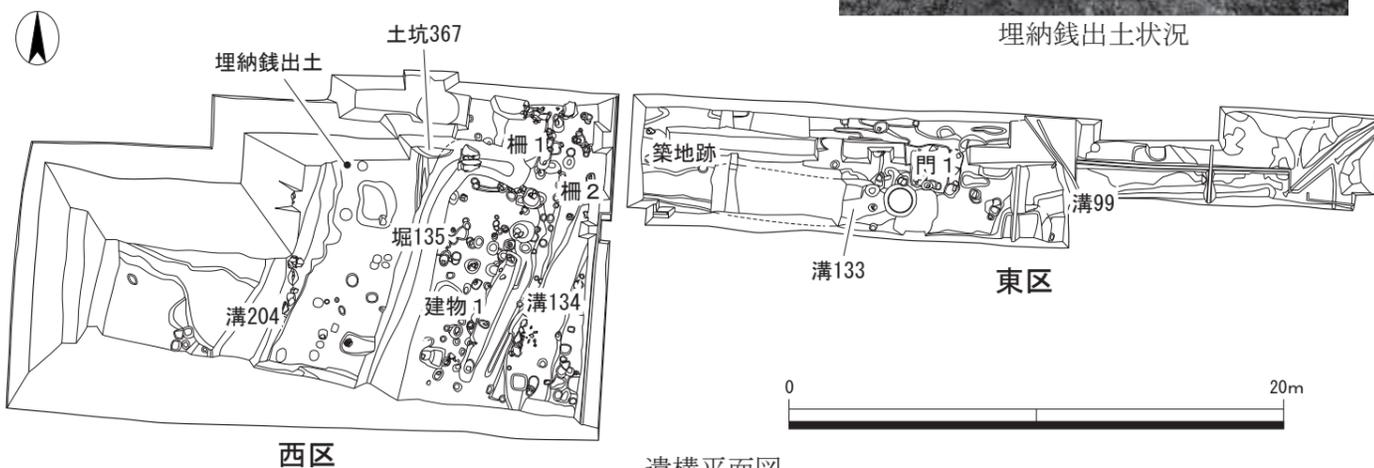
西区第2面全景



土坑367 検出状況



埋納銭出土状況

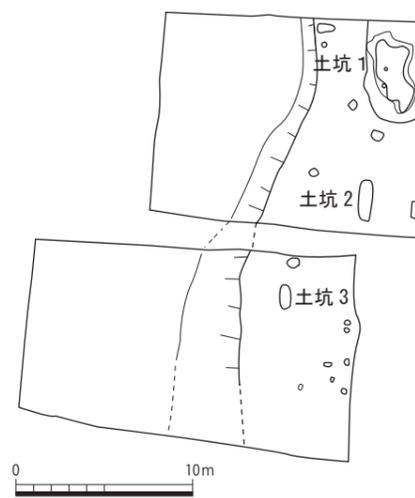


遺構平面図

図3 調査1

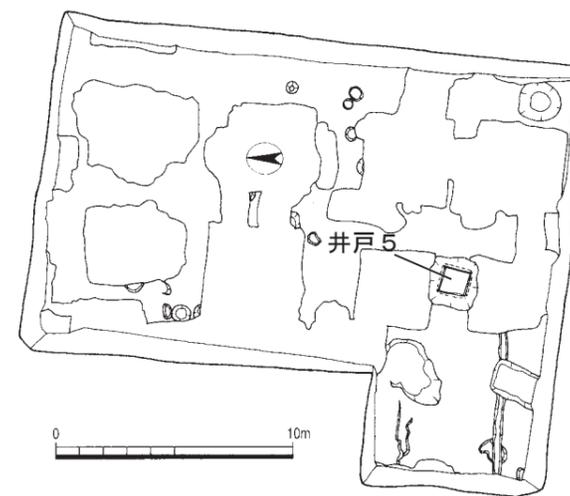
### 立会調査の成果一覧

- 調査3 地表下1.3～1.5mで鎌倉時代の遺物包含層、地表下1.5m以下で鎌倉時代以前の路面を検出した。
- 調査8 平安時代後期から鎌倉時代前期の東西方向の溝を検出した。
- 調査10 平安時代後期の東西方向の溝を検出した。室町時代の東西方向の溝を検出した。
- 調査11 平安時代前期の南北方向の溝を検出した。調査9で検出した路面の延長にあたる。
- 調査12 平安時代後期の地業、桃山時代の南北方向の築地・溝を検出した。桃山時代の遺構は太閤堀の西堀・内溝と推定できる。
- 調査16 平安時代中期の南北方向の溝、平安時代後期から鎌倉時代の東西方向の溝を検出した。



遺構平面図

図4 調査4

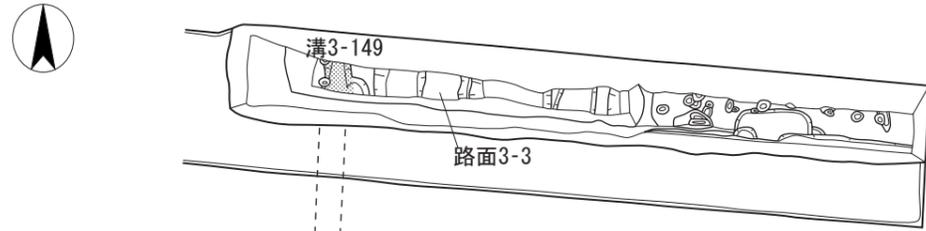


遺構平面図



井戸5

図5 調査5



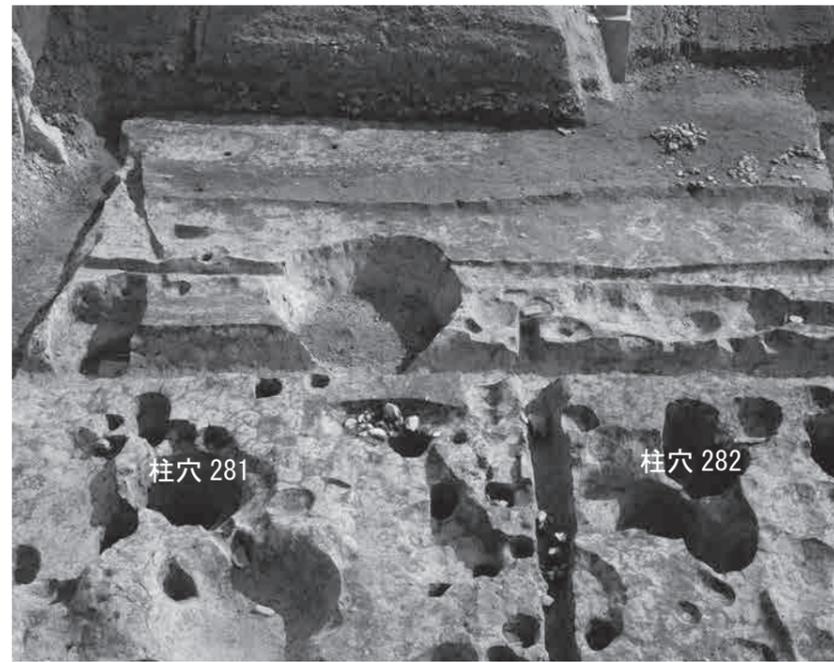
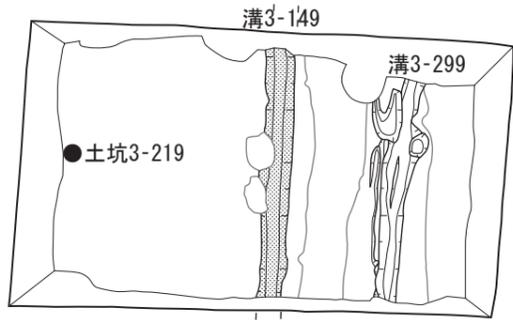
法住寺北殿跡



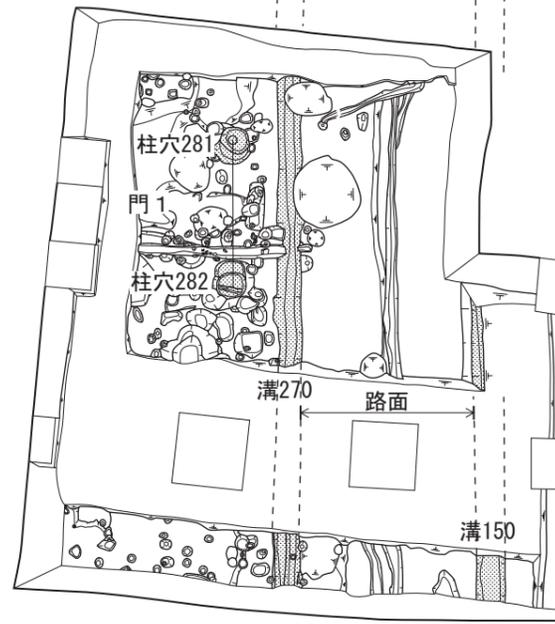
調査区全景



井戸



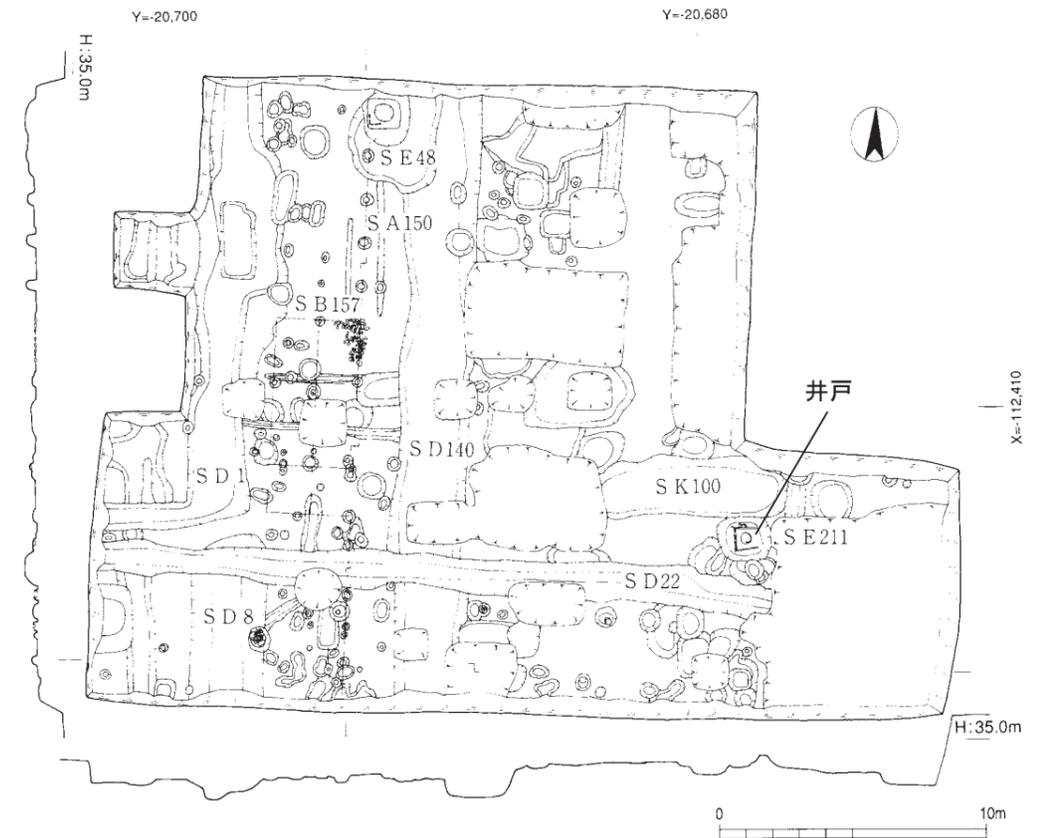
門 1



遺構平面図



土坑 3-219 甕出土状況

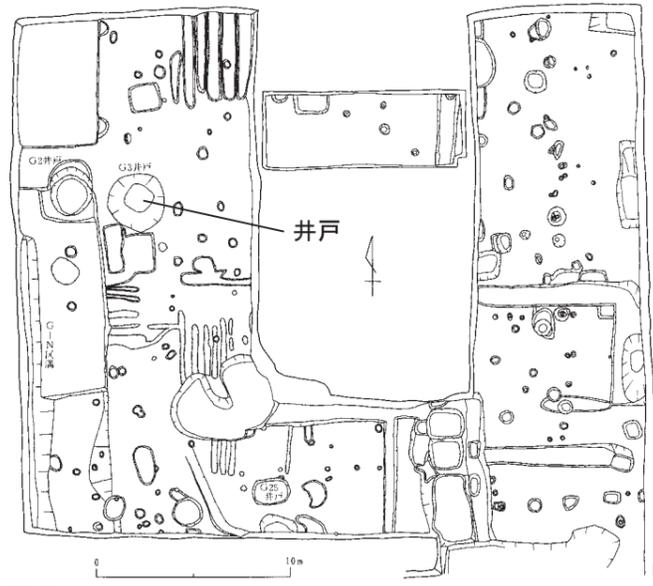


遺構平面図



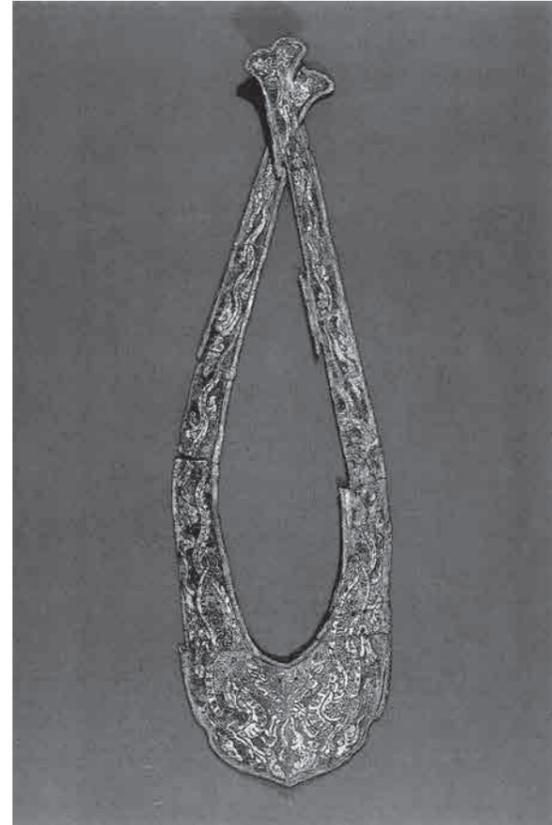
図6 調査6・7

図7 調査9



西区

遺構平面図



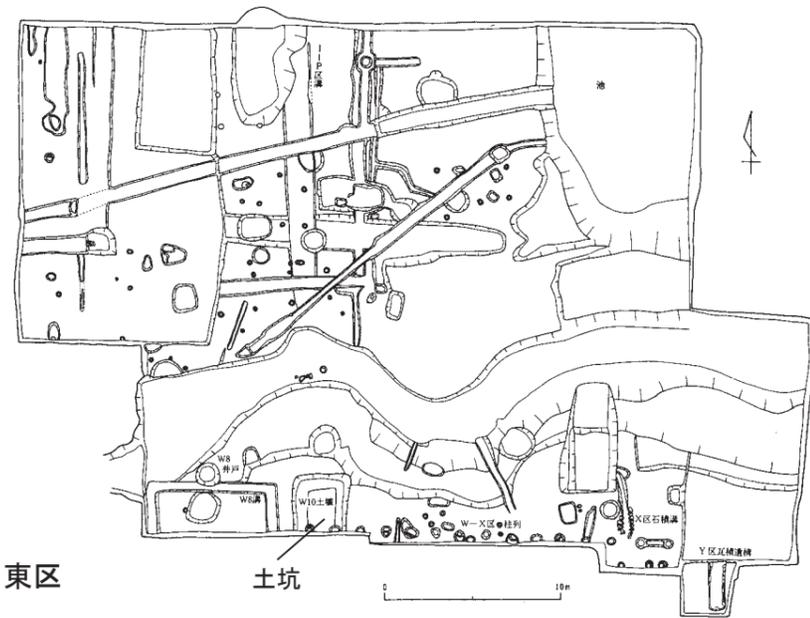
出土した鍬形



建物1 (東より)



建物3

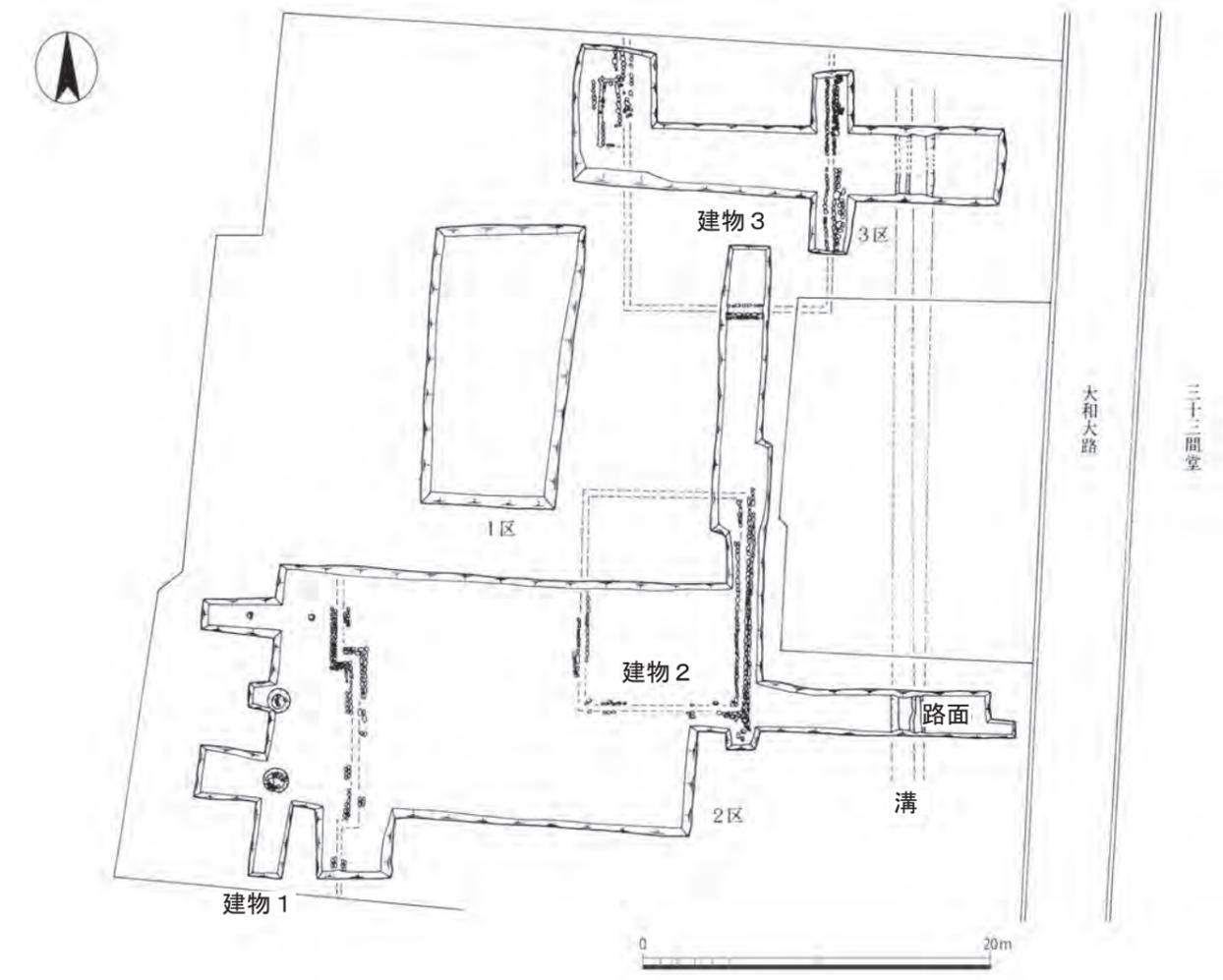


東区

遺構平面図



出土状況



建物1

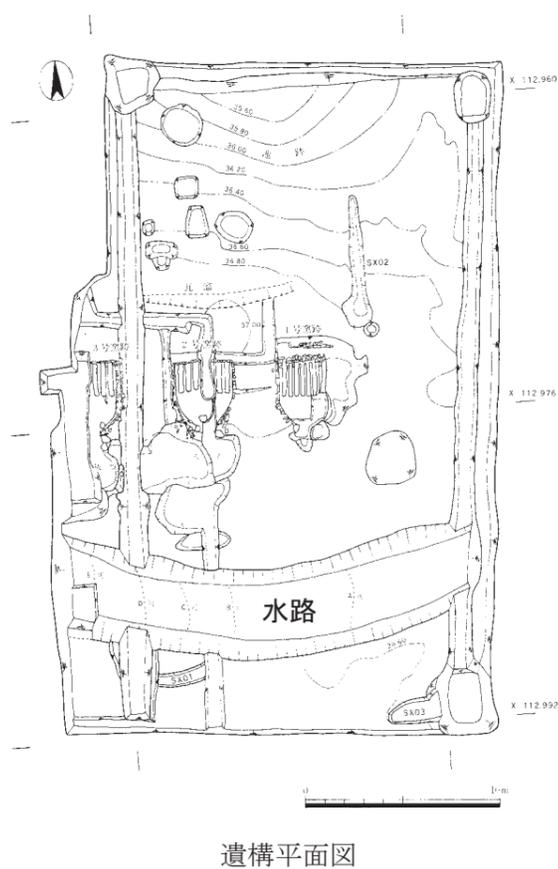
建物3

建物2

遺構平面図

図8 調査14

図9 調査15



水路

図10 調査17



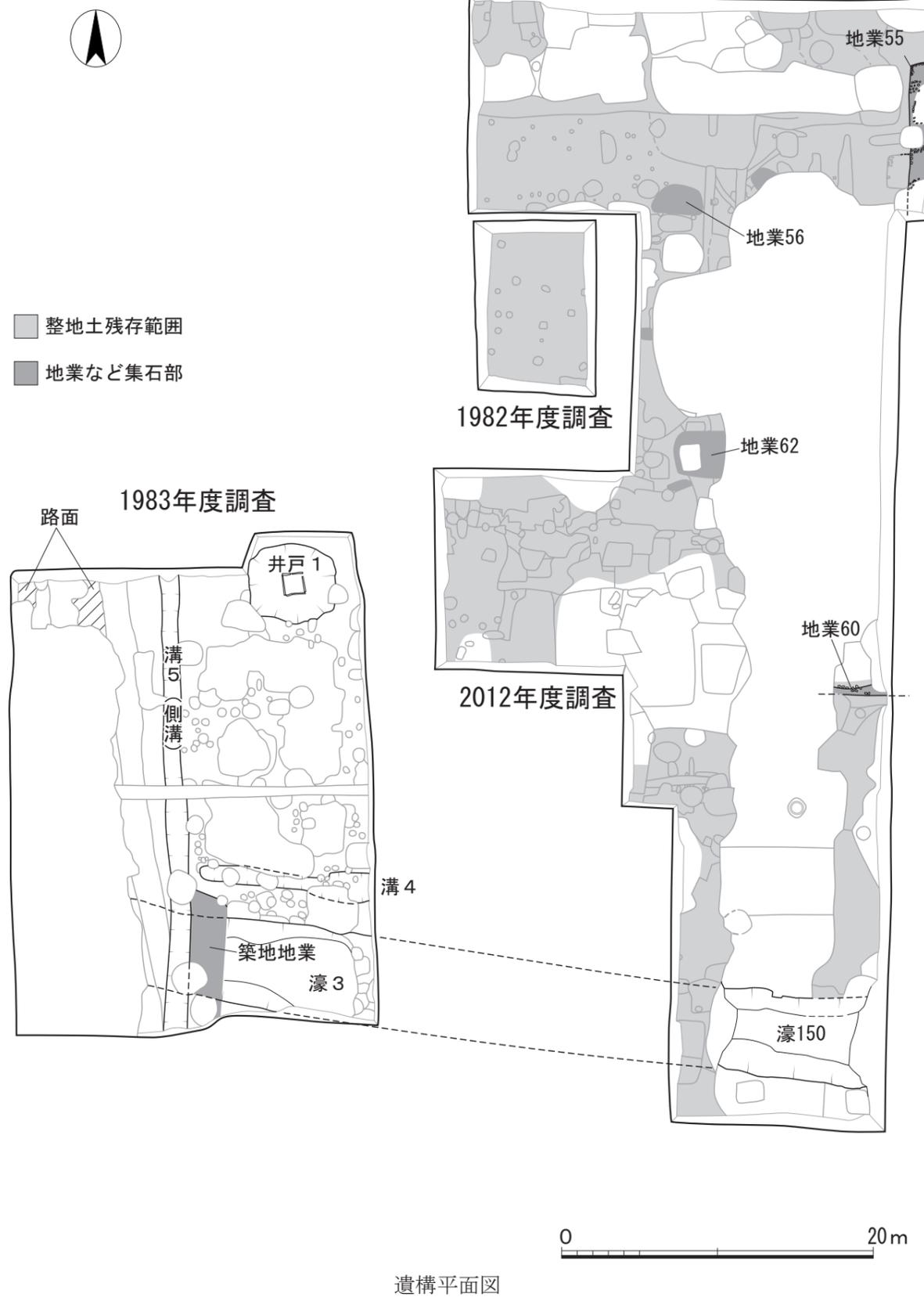
最勝光院の築地地業



最勝光院の井戸から出土した金具・荘厳具



最勝光院の井戸



遺構平面図

図11 調査18・19・20



図12 年中行事絵巻に描かれた法住寺殿

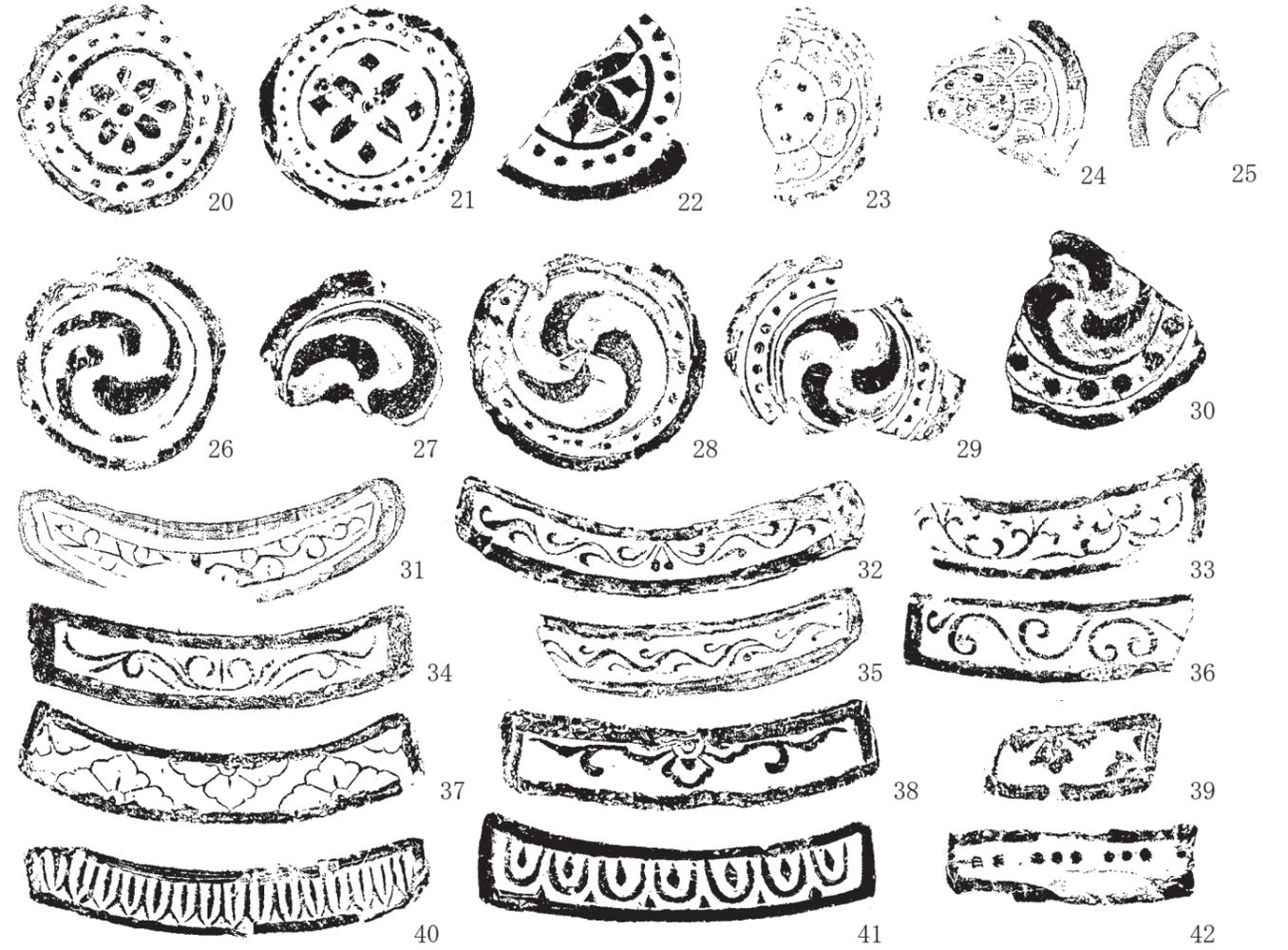


図13 復元模型（左・六波羅邸、右・法住寺殿）  
（京都アスニー展示・京都市歴史資料館蔵）



図14 平安時代後期の各地の瓦

播磨産の瓦



大和産の瓦

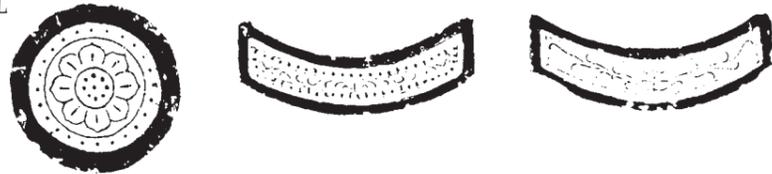


図15 蓮華王院再建時の瓦(1:8)

京都産の瓦

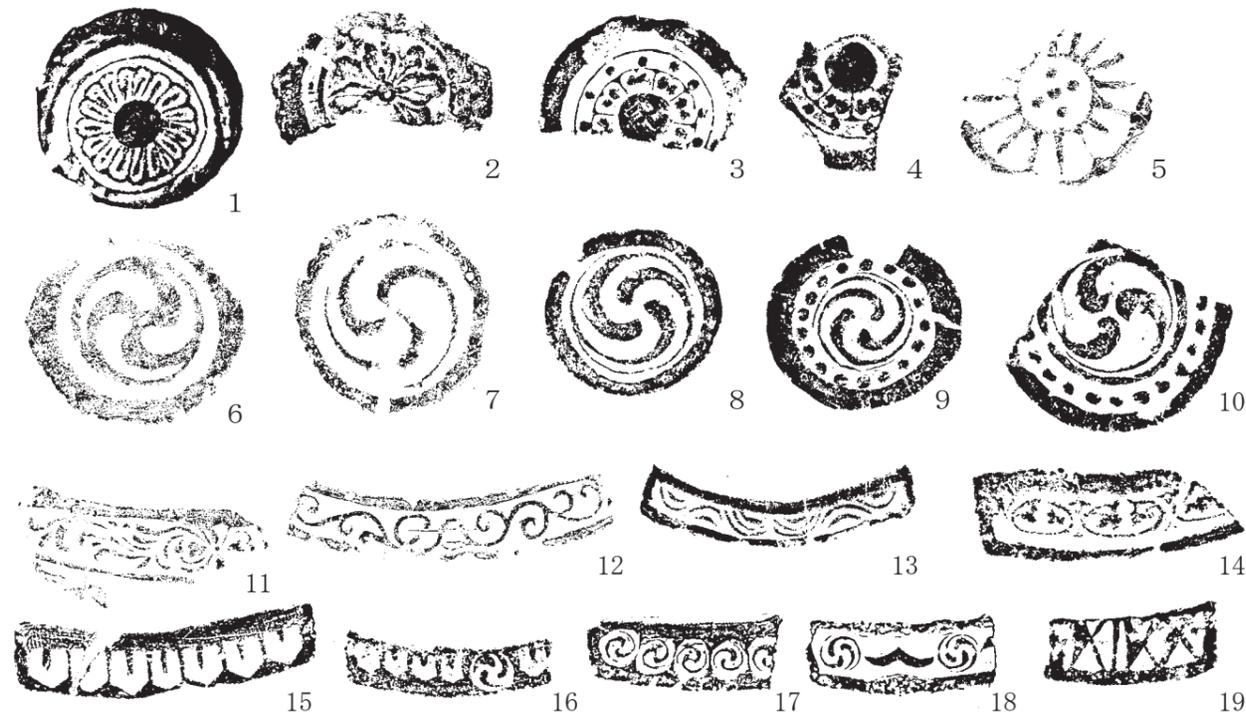
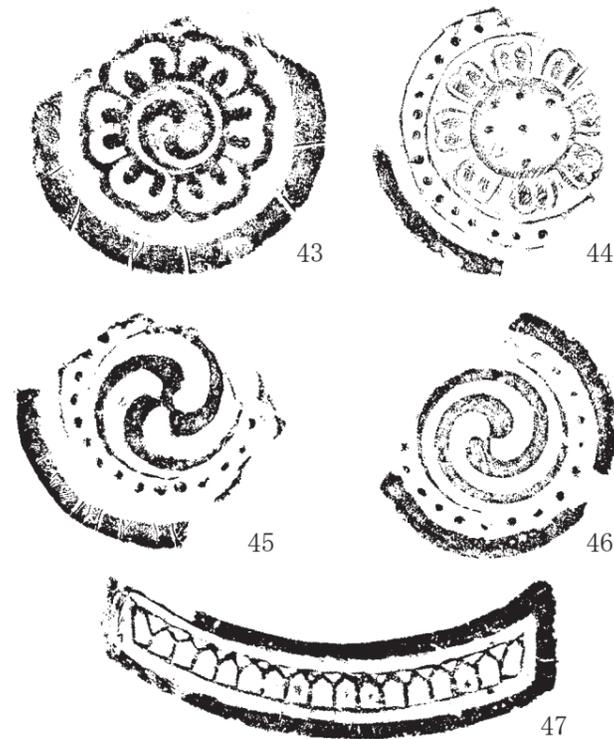
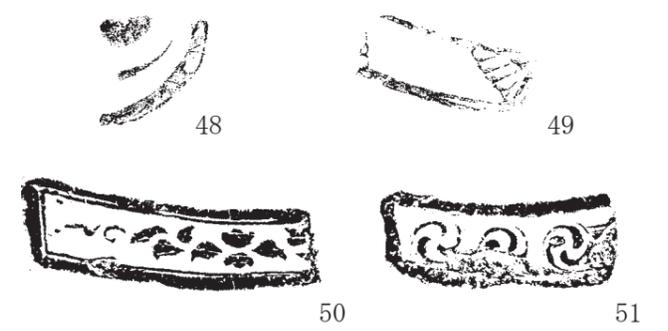


図16 法住寺殿出土瓦(1:4)

大和産の瓦



讃岐産の瓦



和泉産の瓦



河内産の瓦

